

日本大学松戸 歯学部
生理学講座教授
吉田 純子 先生

麻賀多神社と愛宕神社、神明神社、八幡神社の氏子町が加わった4社合同祭「佐倉の秋祭り」が3年ぶりに開催される。日程の短縮や出店はないが、古い町並みが残る城下町を神輿が練り歩き、お囃子を奏でながら山車を引き回し、五穀豊穡を祝う様子はいにしへの賑わいの再現だ。



「玉乃井龍神山車人形」を乗せた二番町の山車(大野さん提供)
https://sakura-maturi.jp

佐倉の秋祭り 二番町人形山車

「玉乃井龍神山車人形」

100年ぶりの復活

15日(土)～16日(日)
各日15時～21時

(佐倉市)



齊藤さんとカフェパパの和泉さん(右側)

京成線大久保駅から徒歩1分、カフェ付きレンタルスペースアートスペースカフェパパで21日(金)23日(日)、自らを手織工と呼ぶ、齊藤知子さん(46)の「織物展」が開催される。

今回の展示では、ボーチ、バッグ、マフラーなど、普段

「齊藤知子 織物展」

—暮らしの中で輝く作品を—

Art Space Café PaPa (習志野市)

「暮らしの中で使う作品を中心に50点ほどを展示、販売する。」

「齊藤さんの作品は、数学的な緻密さが魅力。それでいて、楽しんで作っている感じが伝わってくる。モダンな帯などは着物の組み合わせを考えるのが楽しい。その良さは、実際に使ってみるとわかるんです」と、カフェパパオーナー夫人、和泉めぐみさん。

「布だけだと筆筒の奥にしまわれてしまう。使ってもらえるようにバッグ

そんな中、祭りの中心地にある二番町の人形山車が100年ぶりに復活する。新町通りの「佐倉新町おはやし館」に展示されている江戸時代制作のオリジナル「玉乃井龍神山車人形」を乗せて引き回すが、人形を乗せない形に新町六町と弥勒町が7体の人形のついた山車を購入したものが始まり。

2019年に佐倉二番町祭礼委員会が山車人形を乗せた山車の復活を検討され、山車人形保存会が文化庁に申請して補助を受け、修復するに至った。元々は江戸時代に江戸城の殿様に見せるために制作されたものを明治時代に新町六町と弥勒町が7体の人形のついた山車を購入したものが始まり。

現在は5つが運行されていて、人形は能や日本書紀などを由来としたものが多い。二番町所有の「玉乃井龍神山車人形」を乗せた山車は期間中、新町地区にある複合施設「夢咲くら館」の広場に展示され、新町大通を中心に引き回される。

伝はつてくる。モダンな帯などは着物の組み合わせを考えるのが楽しい。その良さは、実際に使ってみるとわかるんです」と、カフェパパオーナー夫人、和泉めぐみさん。

「布だけだと筆筒の奥にしまわれてしまう。使ってもらえるようにバッグ

「暮らしの中で使う作品を中心に50点ほどを展示、販売する。」

「齊藤さんの作品は、数学的な緻密さが魅力。それでいて、楽しんで作っている感じが伝わってくる。モダンな帯などは着物の組み合わせを考えるのが楽しい。その良さは、実際に使ってみるとわかるんです」と、カフェパパオーナー夫人、和泉めぐみさん。



作品を手にする参加者と荒井さん

SDGsな1dayワークショップ

ふなばしアンデルセン公園 子ども美術館

抽象水墨画家 荒井恵子さん

子さんの「白ト黒ノ間」のいろいろの墨のいろ」と題した企画展が8月から先月まで開かれた。

墨で描いた作品を子ども達の目線に立ち、浮遊感溢れる展示でたいへん好評だった。

会期中、幼児から中学生を対象にしたワークショップ

現在は5つが運行されていて、人形は能や日本書紀などを由来としたものが多い。二番町所有の「玉乃井龍神山車人形」を乗せた山車は期間中、新町地区にある複合施設「夢咲くら館」の広場に展示され、新町大通を中心に引き回される。

「暮らしの中で使う作品を中心に50点ほどを展示、販売する。」

「齊藤さんの作品は、数学的な緻密さが魅力。それでいて、楽しんで作っている感じが伝わってくる。モダンな帯などは着物の組み合わせを考えるのが楽しい。その良さは、実際に使ってみるとわかるんです」と、カフェパパオーナー夫人、和泉めぐみさん。

「暮らしの中で使う作品を中心に50点ほどを展示、販売する。」

「齊藤さんの作品は、数学的な緻密さが魅力。それでいて、楽しんで作っている感じが伝わってくる。モダンな帯などは着物の組み合わせを考えるのが楽しい。その良さは、実際に使ってみるとわかるんです」と、カフェパパオーナー夫人、和泉めぐみさん。



紙漉きした和紙をガラス窓で乾燥

描き、薄墨をつけた刷毛で浮き上がらせるといった技法で作品制作を行っている。

出来上がった自らの作品を手を持ち、グラデーションで展示された100枚の荒井さんの作品の間をランウェイに見立て、ウォークして観客に見せた。参加した子どもたちは「墨」の面白さ、楽しさをおおいに体感する一日となったことだろう。

描き、薄墨をつけた刷毛で浮き上がらせるといった技法で作品制作を行っている。

出来上がった自らの作品を手を持ち、グラデーションで展示された100枚の荒井さんの作品の間をランウェイに見立て、ウォークして観客に見せた。参加した子どもたちは「墨」の面白さ、楽しさをおおいに体感する一日となったことだろう。

#レイソルは子どもとともに

柏レイソルとセーブザ・チルドレンは連携10年を迎えました。

試合に先立ち、現在「SNS投稿シエアキャンペーン」を実施中です。

10月28日(金)までの期間中、柏レイソルとSCJのSNSに投稿される「#レイソル

セーブザ・チルドレン チャリティマッチ

の国際NGO「公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(SCJ)」を支援しています。

すべての子どもが暴力や差別のない世界で、健康に、自分らしく育つために、「#レイソルは子どもとともに」をキャッチフレーズに子どもの権利」レーズに子どもの権利」を推進する活動をSCJを推進する活動をSCJと一緒に展開しています。

ミツクに筆を運びます。松翁を代表する大字作品のひとつです。

9月23日は「手話言語の国際デー」。

2017年12月に国連総会で決議された。また、この日は1951年に世界ろう連盟(WFD)が設立された日でもある。

今年の世界ろう連盟の「手話言語のためのブルーライトイベント」にあわせ、全国各地の名所や施設では、青色にライトアップするイベントが行われた。ライトアップにより、市民社会、地域が一つとなって「手話が言語であることへの認知を広めること」を目指したのだ。

9月23日は「手話言語の国際デー」。

2017年12月に国連総会で決議された。また、この日は1951年に世界ろう連盟(WFD)が設立された日でもある。

今年の世界ろう連盟の「手話言語のためのブルーライトイベント」にあわせ、全国各地の名所や施設では、青色にライトアップするイベントが行われた。ライトアップにより、市民社会、地域が一つとなって「手話が言語であることへの認知を広めること」を目指したのだ。

子どもたちが安心して、成長していける地域社会づくりのために。皆さんもSCJの活動を知っていただき、ぜひともご協力をお願いいたします。

(柏レイソル広報)

柏レイソル公式HP
https://www.reysol.co.jp/

は子どもとともに」関連投稿をシェアいただく。1シェア10円があなたに代わって柏レイソルがSCJに寄付するものです。

またセレッソ戦会場では特別ブースが設けられ、選手の啓発写真パネル設置や、選手とのオンライン対話イベントも計画しています。

千葉県では、2016年6月千葉県手話言語等の普及の促進に関する条例」

等約3年間の準備を費やして、タイトル前文内容が安心して暮らすことが出来る共生社会を実現する。

条例の前文には、「誰もが安心して暮らすことが出来る共生社会を実現する。」とある。

また、小学生向けの冊子を配布し総合学習で学んだり、学校へろう者の方が手話通訳者と共に outgoing、出前授業をして交流している。このような取り組みが、ますます前進していくことを、心より願っています。

手話言語の国際デー

が成立、施行された。2022年8月現在県内で手話言語条例を持ち、その普及促進に取り組んでいるのは、習志野市、浦安市、流山市、八千代市、松戸市、野田市、市川市の7市である。

市川市では、2022年3月、市川市手話言語条例が、議員発議により全会一致で可決、成立した。10名の議員が所属する健康福祉常任委員会が中心となり、先進市の調査研究や近隣市への視察等約3年間の準備を費やして、タイトル前文内容が安心して暮らすことが出来る共生社会を実現する。

ふれあい毎日 あざら

ふれあい毎日では読者の皆さまの「あざら」への投稿をお待ちしています。

ろう者当事者にとって、これは悲願であったという。何故なら、市川市国府台には、日本で唯一の国立のろう学校(現在の筑波大学附属聴覚特別支援学校)が設置されており、この学校に全国から児童生徒が集まり、学び、支え合い、社会的自立と自己実現を図ることが出来る環境が形成されているという、歴史的背景を有する街だからである。

日帰り

専門講師が同行する学びのカルチャーツアー「風来人」

旅するワインサロン 山梨のワイナリーツアー！

～シャトーメルシャンとルミエールワイナリー～

同行講師／藤代美穂氏(一般社団法人日本ソムリエ協会認定ソムリエ)

10月は「旅するワインサロン」初のワイナリーツアーにご案内します。シャトーメルシャン勝沼ワイナリーでのプライベートワインセミナー&テイスティングをメインに、ワイン付きランチや、その他人気のワイナリーでの試飲も準備しております。深まる秋の勝沼でワインを堪能する一日を過ごしましょう。

出発日 10月20日(木)発 (日帰り)

旅行代金 19,800円

(おひとり・税込) ※バス1名2座席利用5,000円増し

コースNo. 【F024X-53】

◆コース／新宿駅前8時発＝〈貸切バス〉＝シャトーメルシャン【藤代先生同行ならではの特別見学ツアー】資料館(ビデオ視聴、見学)・・・祝村ヴィンヤード(見学)・・・地下セラー(見学)・・・ルミエールにてテイスティング(甲州2種&MBAを予定)＝レストラン パパソロッテにてイタリアンコースランチ(グラスワイン1杯付き)＝ルミエールワイナリー(見学とワイン試飲)＝新宿17時30分頃着 ◆食事：昼 ◆添乗員同行 ◆最少催行人員：15名 ◆貸切バス：東栄観光バス

◆申し込み／毎日新聞旅行〈ふれあい〉係 (10時～16時、土日祝休み) 後援・東葛毎日新聞社

シャトーメルシャン勝沼ワイナリー (イメージ)

成る物
持っ
から
も益
る
直す
えられ
切